

大阪の四季を

深ぼりする

アルキメトロ

Osaka Metro

2022
Autumn

特集

大阪ヒーロー推しの旅。

慶沢園は石を見よ！ その心は…

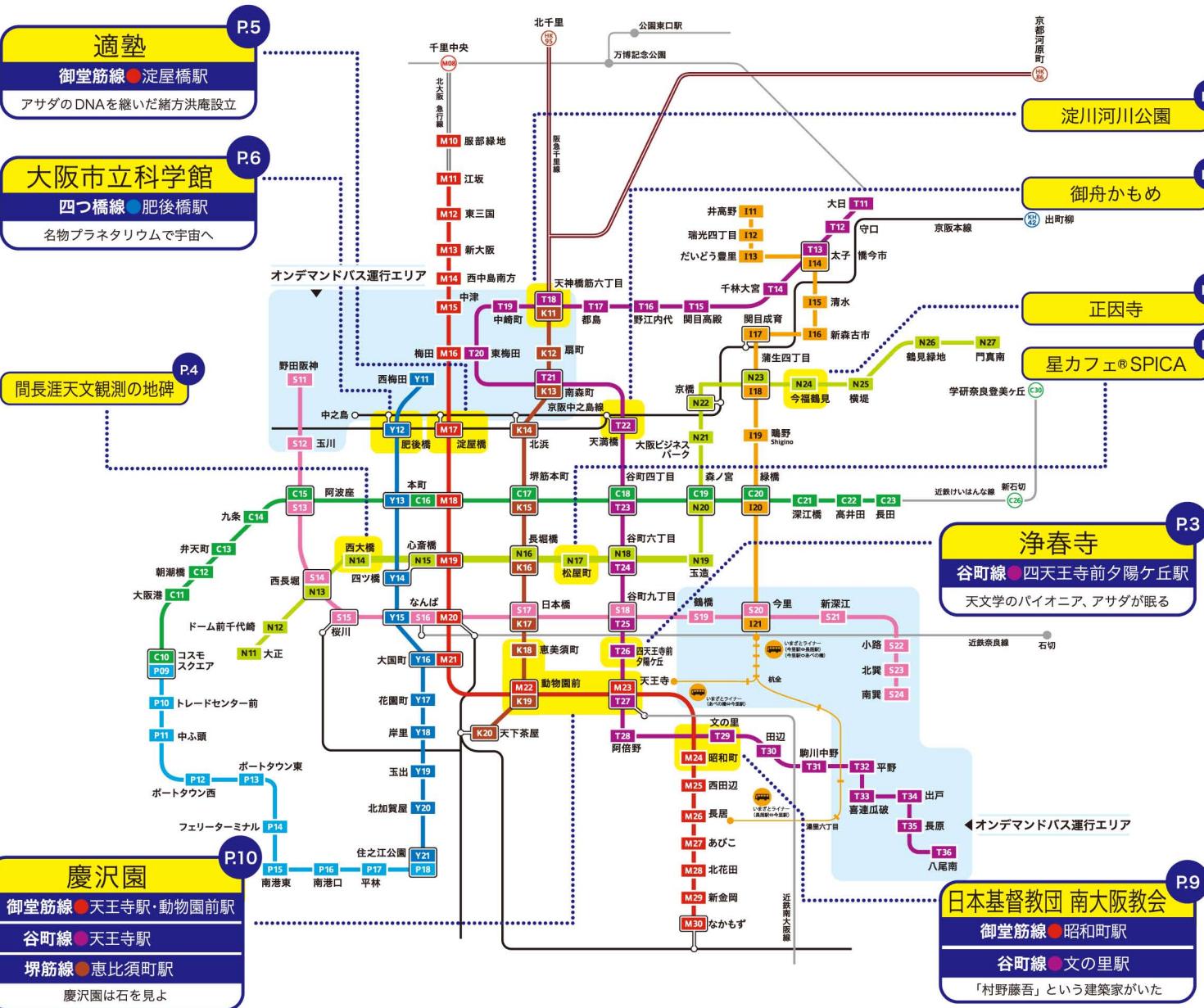


大阪市立科学館
音声ガイド
須藤みかの市立科学館ツアー



御堂筋線 Midosuji Line 四つ橋線 Yotsubashi Line 千日前線 Sennichimae Line 長堀鶴見緑地線 Nagahori Tsurumi-ryokuchi Line ニュートラム New Tram
谷町線 Tanimachi Line 中央線 Chuo Line 堺筋線 Sakaisuji Line 今里筋線 Imazatosuji Line いまとりライナー Imazato Liner

Osaka Metro 大阪ヒーロー推しの旅。



●大阪の四季を深ぼりする「アルキメトロ」編集部の公式SNS(ツイッター、インスタグラム) @arukimetro をぜひご覧ください。



*新型コロナウイルス感染症の影響により休業日や営業時間等が変更になる場合がありますので、おでかけ前に必ず最新情報を各施設・各店舗までご確認ください。
※掲載内容は2022年8月現在のものです。※価格はすべて税込です。

ひと足のばして 博士も愛した天体の魅力を再発見

大阪市立科学館

リニューアルした名物の
プラネタリウムで宇宙旅行



[北区]

「宇宙とエネルギー」をテーマに4階から地下1階まで展示が充実。4階の展示コーナー「江戸時代の天文学」では、P35で紹介した博士たちが使ったいた教科書や観測機器などの実物が間近に見ることができ、天体に魅せられたその息づかいが伝わってくる。

2月には地下1階にある名物のプラネットリウムがリニューアルオープン。最新の全天周映像システムが導入され、はるか遠くの光景をリアルに再現できるよう

この秋には、プラネットリウムで宇宙旅行による今夜の星空解説もあり、大阪の秋の夜空を彩る星にも詳しくなれる。

**おねかもめ イベントクルーズ まんげつのじかん
御舟かもめ イベントクルーズ [満月の時間]**

谷町線 ● 天満橋駅

おねかもめ イベントクルーズ まんげつのじかん
御舟かもめ イベントクルーズ [満月の時間]

おおさかしりつかくくわん
大阪市立科学館

四つ橋線 ● 肥後橋駅
大阪シティバス ● 田蓑橋

プラネタリウム新プログラム「宇宙美術館2022」

日時：～11月27日(日)
※投影時間の詳細はHP
料金：大人600円、高校・大学生450円、3歳以上中学生以下300円

ホール座席も刷新。前後左右にゆとりがあり、抗菌・抗ウイルス処理が施されており安心・快適になった



案内人 須藤みか
(すどう・みか)

ノンフィクションライター。東京の出版社を経て、上海、北京、香港などを移り住み、2015年大阪へ。大阪の歴史や偉人に興味を持つ。著作に『エンブリオロジスト 受精卵を育む人たち』(小学館ノンフィクション大賞受賞)ほか。

**水上テラスで夜空を眺めて
& ISLAND NAKANOSHIMA**

アンドアイランド ナカノシマ

オーナーは大阪育ちで、大人になって星の魅力に気付いたというKeisukeさんは、「秋の星は一等星は少ないけれど、季節ならではの魅力もレクチャ―。晴れの日はビルの屋上で天体観測もでき、実際に自分の目で季節の星を発見できる。



周辺の街歩きも楽しい
秋の大坂市立科学館を
「聴きながら」
味わってみませんか？

表紙に掲載されているQRコードをスマートフォンで読み取ると、今号の特集を取材・執筆した、案内人の須藤みかさんによる大阪市立科学館ツアーの音声ガイドツアーが始まります。おうちでもぜひお聴きください。

● 表紙のQRコードを読み取る>音声ページへ>
再生ボタンを選択>音声ガイド START

毎年どこかの家にやってくる
月と星をタネから育てる「つきとうばん」

この絵本の世界では、月と星は毎年タネを蒔いて育てるもの。そして、それをその年育てる当番「つきとうばん」が回ってくるのです。父さんは畑を耕し、ぼくはいっしょに月とやがて月や星は葉を伸ばし、花を咲かせ、地面で光りはじめて、大きくなつた月の実は空へと浮かんでいきます。ところがそのとき大きな当番が回ってきたらなあと、梅田俊作さんのやさしい絵でお楽し

「つきとうばん」という絵本は、月と星を育てる手掛けられています。これまで人はどれほど魅せられてきたことでしょう」と話される藤田さん作の絵本を、彼と旧知の仲であるつぶくば市の絵本店「えほんやなづな」さんに紹介してもらいました。



御舟かもめ

[中央区]

知る人ぞ知る、贅沢クルーズ

★ 水都大阪をのんびりめぐる8人乗りの小さな御舟。「月明りに照らされたクルーズは格別」と、ほぼ満月の夜に美味しい食事を乗せて出航するイベントクルーズがスタート。月が大きく見える大川や中之島をいつもよりさらによっくり運行し、夜空と水面を仰いでお月見ができる。月齢14.2の10月10日(月・祝)の夜は、谷町の名店「味酒かもめ」の旬の食材を使った日本料理付き。月明りに照らされて美味しい食事に乾杯しよう。



船の上から眺めるお月見

お猪口の日本酒に映る月を愛でる贅沢な体験もできる(写真上、右下/ogura yuji)

星力フエSPICA

[中央区]

街なかのプラネタリウムカフェバー

オーナーは大阪育ちで、大人になって星の魅力に気付いたというKeisukeさんは、「秋の星は一等星は少ないけれど、季節ならではの魅力もレクチャ―。晴れの日はビルの屋上で天体観測もでき、実際に自分の目で季節の星を発見できる。



1日2回あるプラネタリウム解説では、「秋の星は一等星は少ないけれど、季節ならではの魅力もレクチャ―。晴れの日はビルの屋上で天体観測もでき、実際に自分の目で季節の星を発見できる。

1日2回あるプラネタリウム解説では、「秋の星は一等星は少ないけれど、季節ならではの魅力もレクチャ―。晴れの日はビルの屋上で天体観測もでき、実際に自分の目で季節の星を発見できる。



最後は、大阪の建築に華と艶をもたらした20世紀のトウゴさん。

大阪の文化度が低い、と嘆く人は少なくない。でも「20世紀の多彩な新旧建築が現存する」という点では日本一！だと断言できます。理由は「村野藤吾」という建築家がいたから。ヒーローの作品に会いに、メトロで行こう。

取材・文／中島淳（140B）



隣の南大阪幼稚園から。阿倍野の街に溶け込むように建つ教会塔。阿倍野の街に溶け込むように建つ教会塔。（1928年）撮影／西岡潔（礼拝堂）

阿倍野区にある「日本基督教団南大阪教会」の建物は、教会塔と礼拝堂がいずれも村野藤吾（1891～1984）の設計によるもの。それだけなら「都心以外にもあるんだ」で終わる話だが、前者は昭和3年（1928）の建築で後者は昭和56年（1981）。村野が90歳の年の作品だ。同じ建築家で半世紀の差がある建物が仲良く並ぶ光景は、国内でも希少な例ではないだろうか。

独立直前に「デビュー作」を手がける

南大阪教会の創立は大正15年（1926）。礼拝堂建設の必要に迫られていたが、名のある建築家に頼むほど資金はない。すると建築委員の一人がこう言った。「早稻田の同窓生で、若くて頑張っているのがいる。その人に任せたら？」

「その人」村野藤吾は当時、渡邊節（1884～1967）の事務所にいた。大正14年（1925）竣工のダイビルでは設計主任を任せられ、美しい玄関アーチなどの設計手腕で注目を集めはじめていた頃。独立を考えていたトウゴさんは意に感じて設計に着手し、教会塔と木造平屋建ての礼拝堂、2年後の昭和5年（1930）にはその隣に南大阪幼稚園園舎が建てられた。

その後、礼拝堂は度々増築がなされたが、年月



階段の壁に至るまで曲線が優しく、全身が包まるような、やわらかな光が差し込む空間の礼拝堂。天井に大きな木を配した十字架に注目（1981年築）



昭和25年（1950）の礼拝堂増築の際にW.M.ヴォーリズも設計に携わった。ヴォーリズがデザインした聖壇の飾りも保存され、実にレアな「時間差コラボ」



阿倍野らしい狭い通り沿いにある「友安製作所 Cafe&Bar 阿倍野」。居心地抜群のカフェの上階はDIYやインテリアのショップ＆ショールーム ☎06-6627-2004



イケフェス大阪に南大阪教会も初参加！

◎近現代建築の豪華な「顔見世」的イベントで大阪が世界に誇る「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪（OPEN HOUSE OSAKA 2022/イケフェス大阪）」に今年から南大阪教会も他の村野藤吾建築と共に参加します。10/29(土)・30(日)の2日間。内容はHPや10月上旬発売予定の公式ガイドブックをご覗ください。https://ikenchiku.jp/



大橋房太郎が眠る1515年開山の浄土真宗の古刹。大橋家の墓の隣にはフサタロウの活動を支えた森田嘉平次（かへいじ）の顕彰碑もある

故郷に戻ったフサタロウが米屋を営んだ家屋。現在は松下家が守る（内部は非公開）

*「鶴見」の由来は地域内の低湿地帯にツルが群生していた。

ツルが群れ住んでいたなどの諸説ある



しかし、今度は新淀川の付け替えによつて土地を失う地域の説得が必要になる。それが混亂を極め、時には拳銃を突き付けられることがあったが、ひたすら熱い言葉で訴えるのがフサタロウ流。人びとも根負けして立ち退きに応じた。

大水害から24年後の明治42年（1909）、ついに大阪市中を流れる大川を淀川本流から切り離す淀川改修工事が完了した。以降、フサタロウのおかげで大阪の街を襲う大水害は起きていない。

かつて無謀といわれた淀川大改修の遺構

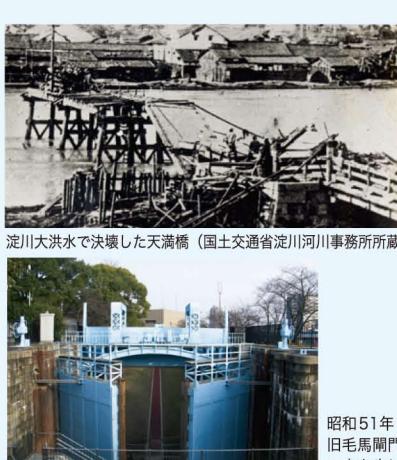
淀川河川公園で偉業の大きさを想う



木々に覆われた淀川改修功碑。この場所で明治42年（1909）に行われた淀川改修工事の竣工式にフサタロウも参加

淀川に人生を変えられた男が、淀川を変えた。フサタロウは寝屋川や六郷川などの治水も手掛け、晩年には政府関係者から「治水翁」の称号を贈られている。

熱すぎる大阪の恩人ゆかりの場所で、知られざる「大阪のヒーロー」の偉業をこの目で確かめてみてほしい。



淀川大洪水で決壊した天満橋（国土交通省淀川河川事務所蔵）



竣工時に旧毛馬門の上で記念写真。センターにフサタロウが写る

取材・文／小川流水（大橋房太郎研究者・平岡珈琲店3代目店主）

毎年、全国各地で起きている集中豪雨が、大阪の中心を襲つたことがあつた。大阪の恩人とも称された大橋房太郎に会いに行こう。

無謀ともいえる計画に取り組んだのは、風水害が心配なこの季節こそ、大阪の恩人とも称された大橋房太郎に会いに行こう。

……

風水害が心配なこの季節こそ、大阪の恩人とも称された大橋房太郎に会いに行こう。

「慶沢園は石を見よ」

取材・文／奥村康治

写真／浜田智則

イラスト／神谷利男

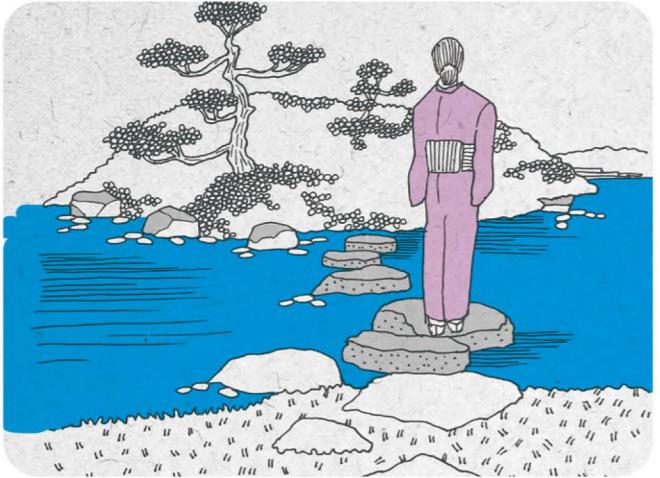
暑すぎた季節が去り、ようやく「庭を歩きたい」気分が戻ってきました。目的地は大阪市営公園で2番目に古い天王寺公園(明治42年開園)ですが、「てんしば」にあります。その北隣、白土堀が東西に続き、堀の向こうには木々が静かに茂る、慶沢園がそれです。大阪を代表する名園を、作庭者の子孫の方と一緒に歩いて、見方のツボを聞きました。

入り口は大阪市立美術館の隣にある。入園料150円を払って門をくぐると、一気に視界が広がる。空間の向こうに木々が連なり、その上に青い空。目を落とすと、手前の空間にあるものは池だった。時間をさかのばつたような錯覚に陥るのは、そこが明治からの空気をそのまま残しているからかもしれない。この庭、まずはどこから見たらいいのだろうか。小川さんに聞いた。

「庭は邸宅の上座、つまり床の間の前で正座した場合に見えるところが正面と考えます。家がもうなくなっている場合、庭の正面がどこにあるのか、それを探るのが、私の仕事上の趣味みたいなものです。おそらく多くの方は、西側の美術館を真後ろにして庭を見ていらっしゃると思いますが、体の右側を美術館寄りにして立つと、庭の正面になると考えられます。小川さんは非公開の画面を取り出しそこから部屋の位置を推理して庭の正面を見立てる、指し示してくれた。その方向を見ると、奥行きには確かに立体感がある。(写真起-①)



承-6
通せんぼの石「中島に渡ると通せんぼしているような石があります。私ならここで足を止める。良い景色をぞらんくださいませ、という石だったでしょうね」



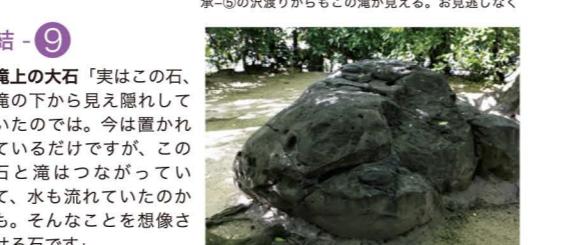
転-7

州浜その2「庭の後ろ側にあたる場所にも州浜があります。リバーシブルのようなものです。今は入れませんが、ここから中島に向けて沢渡りがあり、そこを渡る人の姿も景色になっていたことでしょう。この庭は正面と後ろ側でスケールを変えています」



結-8-1
結-8-2

滝「水源はどこにあるのかなと思うながら歩くのが御庭の定石。滝は庭の『結』の部分にあたります。ここにも沢渡り(②-2)があり、ひと際大きな石が据えられていて、この石からまともに滝が見えます」



結-9

滝上の大石「実はこの石、滝の下から見え隠れしていたのでは。今は置かれているだけですが、この石と滝はつながっていて、水も流れているかも。そんなことを想像させる石です」



慶沢園
Keitakuen Garden

起



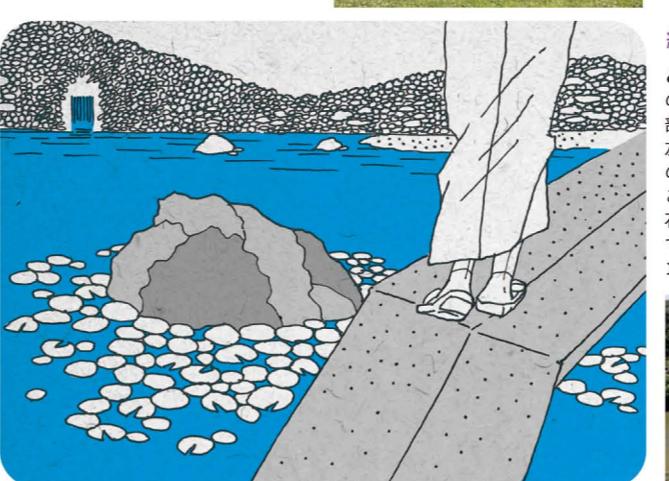
起-2

小川さんが見つけた隠れ石
その1「植込みの間にあたる平べったい石は、橋を見るための石です。池の対岸に雪見灯籠が微かに見え、さりげなく奥行きのある世界を示しています」



起-1

州浜「州浜とは池を浅く広くせる場所で、緩急をつける意味でこの場所があります。ペタンとした船着き石が置かれていますね。今は入れませんが、本来はこの上から庭を眺めます。石の方向でも庭の正面がわかります。ややハルカス方向を向いています」



結-10

とってもおきの場所「この切石橋は『く』の字になっています。曲がっている部分でぜひ、足を止めてください。左手に大石が据えられています。その石の方向に体を向けてください。ここから滝が見えます。この石は『滝はむこうや』と指し示していく、ビューポイントナンバーワンです。石からの気づきですね」

けいたくえん
慶沢園

御堂筋線●天王寺駅・動物園前駅
谷町線●天王寺駅
堺筋線●恵美須町駅
大阪シティバス●あべの橋

天王寺駅5番出口から徒歩約5分
動物園前駅1番出口から徒歩約15分
恵美須町駅3番出口から徒歩約15分
大阪シティバス▶62号系統、いまとライナーあべの橋から徒歩約5分
時間: 9:30~17:00 (入園は16:30まで)
休園日: 月曜日 (祝日の場合は翌日休園)
○大阪市天王寺区茶臼山町天王寺公園内
□06-6761-1770 (真田山公園事務所)



デジタルスタンプラリー開催中
Osaka Pointでめぐる定食めぐり

Osaka Metroでは、沿線の美味しい「定食」を紹介するOsaka Metro「Osaka Pointでめぐる定食めぐり」を、8月20日(土)から11月30日(水)まで開催中です。対象店舗をめぐり、店舗にて掲出しているQRコードを読み取ることで、1店舗ごとにデジタルスタンプを獲得、スタンプを3個集めることに1回、5,000円相当のOsaka Pointが10名様に当たる抽選に応募することができます。

Osaka Metroに乗ってお気に入りの定食メニューを見つけにお出かけください。

定食めぐりデジタルスタンプラリー
参加はこちらから →

「アルキメトロ」読者アンケートにご協力ください

今回のアルキメトロはいかがでしたか？
読者アンケートに答えると抽選で大阪市立科学館の展示場とプラネタリウム(平日限定)の観覧券をセットで5組10名様にプレゼント。

締切/2022年11月6日(日)

●アンケートフォームはこちら →

表紙のことば

**「村野藤吾のほかに
スターがこんなに！(汗)」**

G

大阪って面白い人材を輩出しているんですね！打ち合わせ中に「OSAKA HEROES」というフレーズが出てきたときに「戦隊シリーズ」が頭に浮かんだ。漫画家の井上ミノルさんを起用するのには決まっていたが、さて表紙はイラストメインでいいか？いや、それは普通過ぎるな！フト頭によぎったのが、ファンション・ブランドのシンボルマーク。ヒーローたちのインシャルをシンボルにしたらオモシロイかも？今号の表紙はそんなアプローチでした。(神谷)

アルキメトロ 2022年秋号
表紙絵・イラスト・デザイン／神谷利男
編集／株式会社140B
発行／大阪市高速電気軌道株式会社
2022年9月16日発行

慶沢園は林泉回遊式と言われる様式だ。池の周囲はもちろん、林の中にも趣向を凝らしている。入口でもらえるパンフレットには、池に沿って見どころが記されているが、小川さんは先祖が作った庭に何を見るのか。

「園内に配置された数々の大きな石です。忘れ去られている石や、当時の役目を失っている石もあります。私たちには石を『先生』にして教えてもらいます。そうすると、当時どんな思いで石を据えたのか、石の角度から逆算して、人がどこに居て、何を見ていたのかがわかります。人の動線もわかります。石がすべてを物語ってくれるのです」

「慶沢園では池を左に見ながら回るのが正解です。庭にも起承転結があるのです」

池の畔から園内を見渡すだけでも大きな石はいくつも目にに入る。それらにどんな意味や狙いがあるのか、歩いてみよう。さてどの道から？

「慶沢園では池を左に見ながら回るのが正解です。庭にも起承転結があるのです」

「アルキメトロ」読者アンケートにご協力ください

今回のアルキメトロはいかがでしたか？
読者アンケートに答えると抽選で大阪市立科学館の展示場とプラネタリウム(平日限定)の観覧券をセットで5組10名様にプレゼント。



本誌で紹介した大阪のヒーローたちも観たかもしれない天体ショーを現代の天体プロである学芸員さんの解説付きでお楽しみ下さい。
※いずれも使用期限は2023年3月末
※どちらの観覧券もチケットカウンターで当日券との引き換えが必要(満席の場合はご入場できません)

締切/2022年11月6日(日)

●アンケートフォームはこちら →

参考文献:『大阪春秋』第95号「慶沢園と住友春翠」/宮本又次『大阪経人と文化』(実教出版) /『大阪朝日新聞』『大阪毎日新聞』大正10年(1921)12月7日夕刊